

平成 30 年 5 月 15 日

報 道 各 位

新 潟 市
井 関 農 機 株 式 会 社
株 式 会 社 中 野 信 越
株 式 会 社 ス カ イ マ テ ィ ク ス
国 際 航 業 株 式 会 社
ウ ォ ー タ ー セ ル 株 式 会 社

「スマート農業 企業間連携実証プロジェクト」を開始しました（お知らせ）

新潟市と井関農機株式会社、株式会社中野信越、株式会社スカイマティクス、国際航業株式会社、ウォーターセル株式会社は、各企業が有する革新的技術を組み合わせ、スマート農機（ICT 田植機、ICT コンバイン）やリモートセンシング（ドローン、人工衛星）で得られた情報を、営農支援システム「アグリノート」に集約し一元管理することで、稲作の省力化や低コスト化、高品質化に向けた定量的評価を行うことを目的に、実証実験を開始しました。



■背景

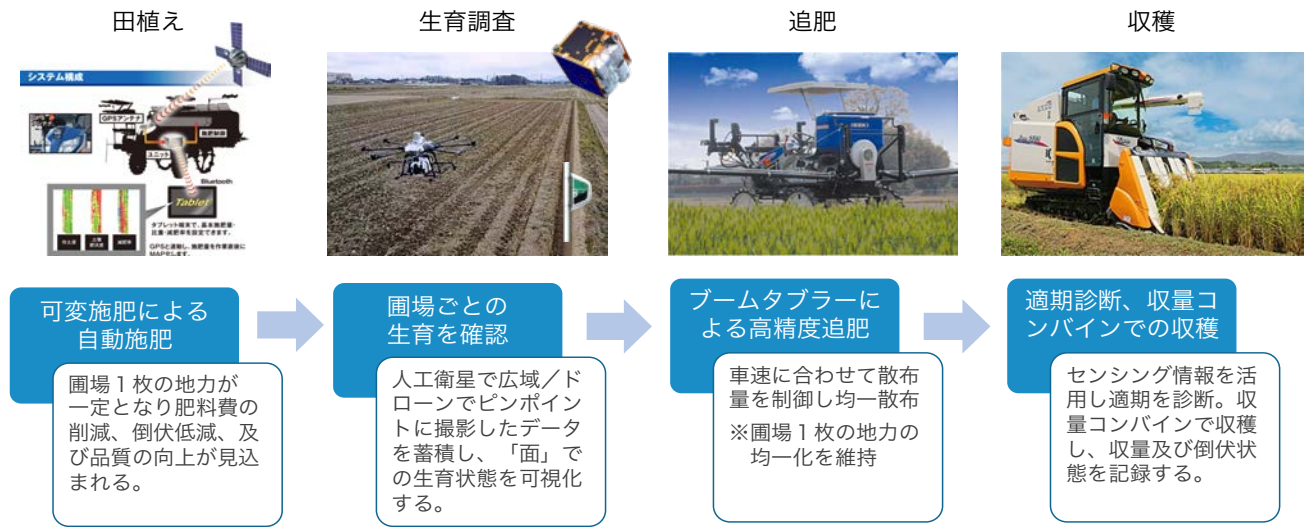
新潟市は平成26年5月に国家戦略特区に指定されて以降、規制緩和を活用した事業に加え、革新的技術を有する大手企業や農業ベンチャーと連携し、複数の実証プロジェクトを立ち上げるなど、国内最先端のICT農業を積極的に進めてきました。しかしながら、得られた情報の一元管理や取組みの成果の可視化が難しく、大きな課題でありました。

■プロジェクト概要

本プロジェクトでは、各企業が有する革新的技術を組み合わせ、クラウドで一元管理して「結果の見える化」を実現することを目的に、下図のとおり、データに基づく水稲の栽培管理を実証していきます。






モニターはアグリノートのアクティブユーザーである「有限会社米八（新潟市南区）」で、作付品種は、昨年本格栽培が始まった新潟県の新品種「新之助」です。

実証区（36a×2箇所）と慣行区（10a）を設け、実証区ではスマート農機やリモートセンシングなどの最先端技術を投入するとともに、収穫後に収量や品質等について、慣行区と比較検証する予定です。



営農管理システム『アグリノート』で見える化

■各事業者の役割

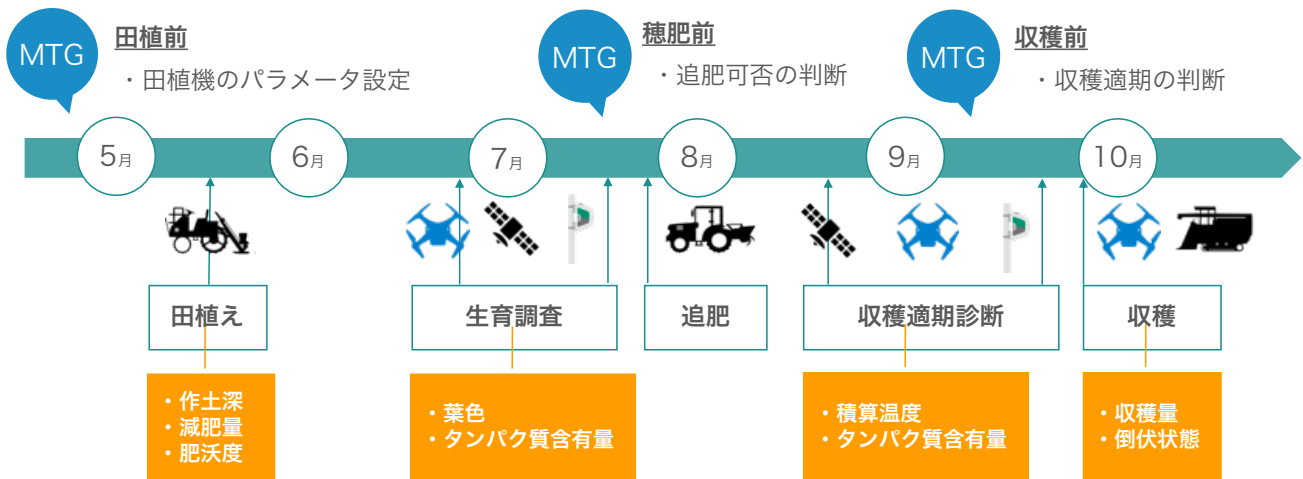
| 連携事業者 | | 主な役割 |
|--|---|------|
|  井関農機(株) (株) 中セキ信越 | ・ICT田植機（可変施肥+直進アシスト）による田植え ・ICTコンバイン（収量センサ測定）による収穫 等 | |
|  (株)スカイマティクス | ・ドローンによるリモートセンシング | |
|  国際航業 | ・人工衛星によるリモートセンシング | |
|  ウォーターセル(株) | ・アグリノートによる農業情報の一元管理 | |
|  新潟市 | ・農業者とのマッチング、全体の事業調整 | |

■実証スケジュール

事業期間は2カ年で、事業1年目に農業情報の一元管理・見える化（オープンイノベーション）、事業2年目に農業情報を基にした農業経営支援（商業ベースでの機能強化）に取り組めます。また、各生育ステージにおいて、プレス公開による実演を行う予定です。

実証期間

平成30年5月15日（キックオフ）～平成32年3月末



■当リリースに関するお問合せ先

| | |
|---|---|
| <p><スマート農業 企業間連携実証プロジェクトについて></p> <p>新潟市ニューフードバレー特区課 小出、近</p> <p>TEL : 025-226-1864</p> <p>E-Mail : foodvalley@city.niigata.lg.jp</p> | <p><スマート農機について></p> <p>井関農機株式会社 IR・広報室</p> <p>TEL : 03-5604-7709</p> <p>E-Mail : isk-info@iseki.co.jp</p> |
| <p><アグリノートについて></p> <p>ウォーターセル株式会社 スマート農業推進部</p> <p>TEL : 025-282-7368</p> <p>E-Mail : release@agri-note.jp</p> | <p><ドローンによるリモートセンシングについて></p> <p>株式会社スカイマティクス 問い合わせ窓口</p> <p>E-Mail: info@skymatix.co.jp</p> |
| <p><人工衛星によるリモートセンシングについて></p> <p>日本アジアグループ株式会社</p> <p>コーポレート・コミュニケーション部 国際航業 広報担当</p> <p>E-mail : info-kkc@kk-grp.jp</p> | |